

〈小学校国語部会〉

研究主題

「自分の考えを書く力を高める個に応じた指導の研究開発」

研究の概要

「確かな学力」をはぐくむという学習指導要領のねらいの実現に向けて、個に応じた指導を充実させるため、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かい指導の工夫を行うことが求められている。一方、国際的な学力調査や平成15年度教育課程実施状況調査から、我が国の児童・生徒には、「相手や目的に応じ、自分の考えを明確にして書く力が十分に身に付いていない」ということが明らかになった。また、「書くこと」は個別に学習が展開されるという特色をもつために個人差が表れやすく個に応じた指導の充実が求められる。これらの課題を踏まえ、「書くこと」の指導において、自分の考えを書く能力を高めるための指導の在り方について研究開発を行う。

I 研究の目的

自分の考えを筋道立てて書く能力を高めるための指導の在り方を明らかにするとともに、指導の改善を図るための指導資料の作成を行う。

II 研究の方法

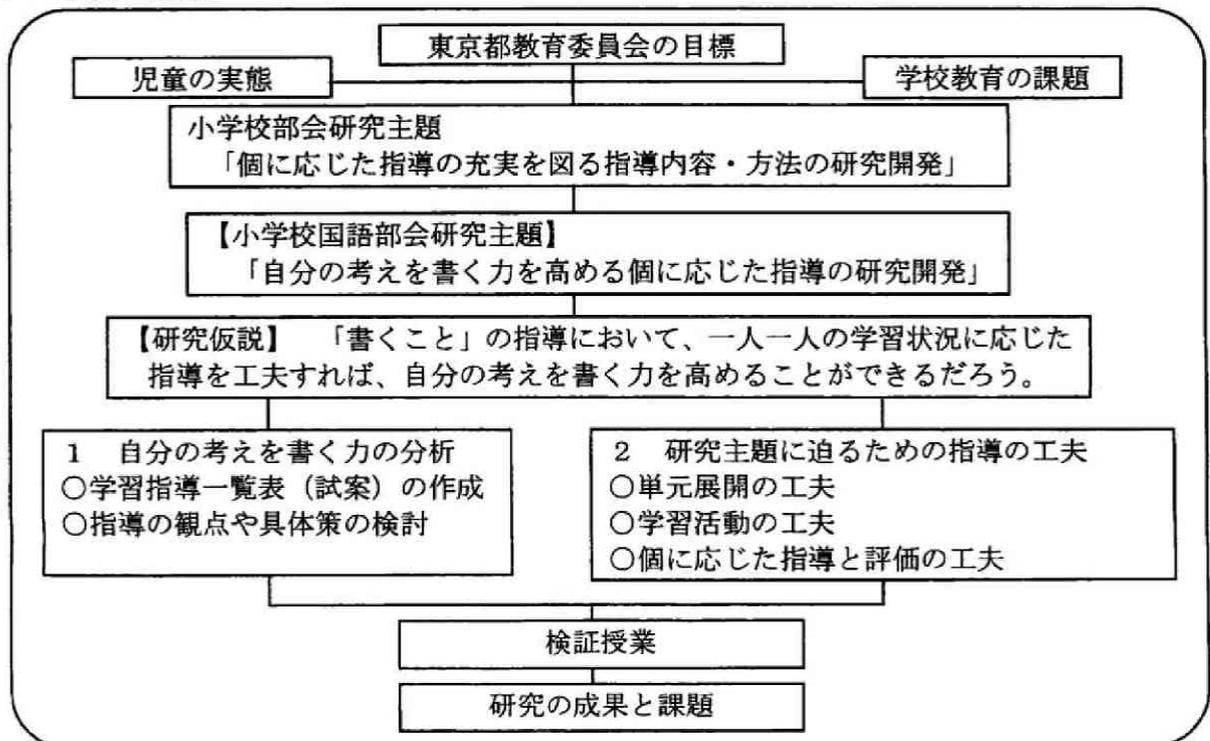
- 1 研究主題について協議を行い、書くことの学習過程に沿った指導の在り方を明らかにする。
- 2 基本的な考え方をもとにして研究の仮説を設定する。
- 3 検証授業を行い、効果的な指導について考察する。

III 研究の内容

- 1 学習過程に沿って、自分の考えを書くために必要な能力の分析を行う。このことにより、書く過程における指導の重点や支援の具体策を明らかにする。
- 2 1について、系統性を踏まえ整理したものを活用しながら、自分の考えを書く力を高めるための指導の工夫に取り組み、具体的な指導の在り方を明らかにする。

1 研究の基本的な考え方

(1) 研究の構想



(2) 自分の考えを書く力の分析と「学習指導一覧表（試案）」の作成

自分の考えを筋道立てて書く力を高めるためには、その諸能力を分析し系統立てた指導を積み重ねることが大切である。そこで、どのような力を身に付けさせる必要があるのかを書くことの学習過程ごとに分析し、指導の観点を明らかにした。この指導の観点にしたがって、発達段階を踏まえ、個に応じた指導を一層充実させるための指導資料として「学習指導一覧表（試案）」を作成した。

「書くこと」の学習過程において「目標の明確化→指導→評価→評価に基づく指導」というサイクルを繰り返し行い、指導と評価の一体化を継続的に積み上げていくことで個に応じた指導の充実を図りたいと考えた。そこで、一覧表の項目として、「自分の考えを書く力」「学習活動の例」「評価規準（評価方法）」「評価に基づく指導」の四つの項目を設定した。

この一覧表を活用することにより、学校、学級や児童の実態に応じて、重点的に育てたい能力を取り上げ目標として設定し、評価規準に照らして学習状況を評価し、適切な指導を行うことが可能になるのではないかと考えた。

この一覧表作成にあたっては、以下のような点に配慮した。

【学習過程】

「課題をもつ→考えをつくる→取材する→構成する→考えを言葉にする→記述する→推敲する→交流する」という学習過程を設定した。児童が自分の考えや意見を明確にすることや自分の考えや意見を言葉で表現することを重視し、「考えをつくる」段階や「考えを言葉にする」段階を学習過程に位置付けた。このことにより、記述前の学習過程が、これまでよりも細分化され、一人一人の学習状況に応じたきめ細かく丁寧な指導が可能になると考えた。

【自分の考えを書く力】

学習過程に沿って、各段階で「育てたい力」の観点を明らかにした。これらの観点は、学習過程の各段階における指導の重点を整理したものである。その観点に沿って低学年、中学年、高学年ごとに「自分の考えを書く力」を具体的に示した。

学習過程	観点	自分の考えを書く力	学習活動の例	評価規準(評価方法)	評価に基づく指導
課題をもつ 構想を練る(考えを)	興味・関心 相手意識・目的意識	・めあてをもち、適切に書こうとする。 ・相手意識や目的意識をより明確にもって取り組む。	・相手や目的について話し合い、学習計画を立てる。 ・提示文を自分の書き方と比較して読み、書こうとする意欲を高める。	○相手や目的をもち適切に書こうとしている。(観察) ○書くことのめあてをもって書こうとしている。(学習シート、観察)	・意欲を喚起する題材・課題・場の設定をする。 ・学習計画カードに書くめあてを記入し課題を意識付ける ・児童作品や説明文

【学習活動の例】

自分の考えを書くことに関連している文章の種類や形態（5ページ表参照）を対象とした場合の具体的な学習活動の例を示した。

【評価規準（評価方法）】

各学習過程において示した学習活動の例に対応する具体的な評価規準と評価方法を示した。

【評価に基づく指導】

評価規準に照らして、「努力を要する」と判断される児童や「十分満足できる」と判断される児童に対して、どのような指導を行うとよいかを具体的に示した。

学習指導一覽表（中学年）－試案－

学習過程	観点	自分の考えを書く力	学習活動の例	評価規準(評価方法)	評価に基づく指導	観点	学習過程
課題をもつ 考えをつくる 取材する 構成する 考えを言葉にする 記述する 推敲する 交流する	構想を練る（考えを確かめる・広げる・深める） 興味・関心 相手意識・目的意識 課題把握	<ul style="list-style-type: none"> めあてをもち、適切に書こうとする。 相手意識や目的意識を明確にもちながら取り組む。 段落相互の関係や続き方に注意して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的について話し合い、学習計画を立てる。 提示文を自分の書き方と比較して読み、書こうとする意欲を高める。 書くことのめあてをつかみ、学習シートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的をもち適切に書こうとしている。（観察） 書くことのめあてをもって書こうとしている。（学習シート・観察） 相手や目的を考えながら学習計画を立てている。（学習シート） 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲を喚起する題材・課題・場の設定をする。 学習計画カードに、書くめあてを記入し課題を意欲付ける。 児童作文や説明文教材を提示し意欲や学習の見通しをもたせる。 	興味・関心 相手意識・目的意識 課題把握	構想を練る（考えを確かめる・広げる・深める） 文章を練る（言葉を集める・選ぶ・つなげる・磨く）
	ものの見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> 書く事柄を整理しながら、自分の考えを明確なものにしていく。 目的などに照らして、書く内容と自分の考えとのつながりを筋道だったものにする。 友達の考えを取り入れながら、自分の見方や考えを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く事柄をメモに書き出し、自分の思いや考えを学習カード等を書く。 書く相手や目的に照らしながら、構想メモやカード（項目立て・方法の決定等）を書く。 友達と話し合ったり、交流したりして自分の考えを明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを整理し、書く事柄をカード等に書き出している。（カード・観察） 友達との話し合いや交流を通して、自分の考えを明らかにしている。（観察・発言） 	<ul style="list-style-type: none"> ウェビングなどをして書く事柄を整理しながら、伝えたいことの内容を明確にさせる。 調べたいことや題材ごとにグループを作り情報交換する場を設定する。 	ものの見方・考え方	
	情報収集・取捨選択	<ul style="list-style-type: none"> 書く必要のある事柄を収集したり選択したりする。 相手や目的に応じて、書く必要がある事柄かどうかを考えたり順序や軽重を考えたりする。 学校図書館などを利用しながら、適切に材料の収集を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことや経験したことなどの中から、書く必要がある事柄をメモに書き出す。 書き出したメモの中から、相手や目的に照らして書く必要のある事柄を選ぶ。 必要に応じて、学校図書館などを活用し材料を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、書く必要がある事柄を集めている。（観察・メモ） 相手や目的、自分の思いや考えに応じて、書く必要がある事柄を選んでいる。（観察・メモ） 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数のグループによる友達との情報交換の場をさせる。 相手や目的を確かめたり、情報の取捨選択の観点の例を示したりして、書く必要がある事柄かどうかを考えさせる。 	情報収集・取捨選択	
	論理・組み立て	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考える。 事柄ごとのまとまりを意識して、区切りを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 中心がはっきりするように構成を考え、学習シートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 書きたいことの中心が伝わるように、段落相互の関係を考えている。（学習シート） 	<ul style="list-style-type: none"> 事例と自分の考えや思いとのつながりを確かめることができる学習シートを提示する。 	論理・組み立て	
	文章化	<ul style="list-style-type: none"> 段落相互のつながりを考えた表現の仕方が分かる。 段落相互の関係を考えた表現の仕方を考える。 段落相互の関係を考えた表現の仕方を考え言葉や文章に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落相互のつながりを考えながら、調べたことや経験したことなどを分かりやすく伝えるための書き方を知る。 調べたことや経験したことなどが伝わるように段落相互のつながりについて考える。 学習シートやメモを基に書きたいことを言葉や文章に書いたり、メモを膨らませたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落相互のつながりを考えながら、調べたことや経験したことなどを分かりやすく伝えるための書き方が分かっている。（観察、発言、メモ） 調べたことや経験したことなどが分かりやすく伝わる段落相互のつながりについて考えている。（観察、発言、メモ） 学習シートやメモを基に書きたいことを言葉や文章に書いたり、メモを膨らませたりしている。（観察、発言、メモ、学習シート） 	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合い、気付いたことや変更したいことなどを書き加えたり、書き換えたりして組み立てメモなどの見直しをさせる。 調べたことや経験したことと自分の思いや考えとのつながりについて話し合う場を設定する。 	文章化	
	記述(文章) 表記(言葉遣い)	<ul style="list-style-type: none"> 書こうとするものの中心を明確にしながら、段落と段落の続き方（事柄のまとまり・区切りなど）に注意して書く。 文脈に沿って、指示語や接続語を書く。 文章の敬体と常体の違いに注意して書く。 送り仮名、句読点、改行に注意して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の疑問に思った事などについて調べてまとめる。 経験した事を記録文や学級新聞に書く。 文脈に沿って、指示語や接続語を使って書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 書こうとするものの中心を明確にしながら、段落と段落の続き方に注意して書いている。（観察、作品） 文脈に沿って、指示語や接続語を使って書いている。（観察、作品） 段落の始めや会話の部分を改行して書いている。（観察、作品） 	<ul style="list-style-type: none"> 整理カードを見直して、中心が明確になるような構成になっているかを確かめるように働きかける。 段落の始めや会話の部分の改行ができていないか、適宜、確認するように働きかける。 	記述(文章) 表記(言葉遣い)	
	文(文法) 語句(語彙)	<ul style="list-style-type: none"> 修飾と被修飾との関係をはっきりさせて書く。 指示語、接続語を適切に使って書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 文脈に沿って、指示語や接続語を使って書く。 			文(文法) 語句(語彙)	
	自己評価・相互評価	<ul style="list-style-type: none"> 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりする。 取材、構成、記述などに見られる具体的なよさに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の文章を読み返し、よいところを見付けたり間違いを正したりする。 友達の作品を読み、そのよさを自分の作品に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書いた文を読み返し、よいところを見付けたり、間違いを正したりする。 辞書を活用しながら、表記上の間違いを正している。 友達の作品のよいところを自分の作品に取り入れている。（カードの分析・観察） 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいに即した具体的な評価の観点を示した評価カードを提示する。 互いの作品を読み合い、よいところを見付けられるように働きかける。 	自己評価・相互評価	
	活用	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み合い、題材のとらえ方・材料の集め方・記述の仕方など、自分の表現に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の表現のよさを見つけ、伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の表現のよさを見付け、伝えている。（カードの分析・観察） 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の表現のよさを伝える観点を提示する。 	活用	

(3) 研究主題に迫るための手だて

ア 単元展開の工夫

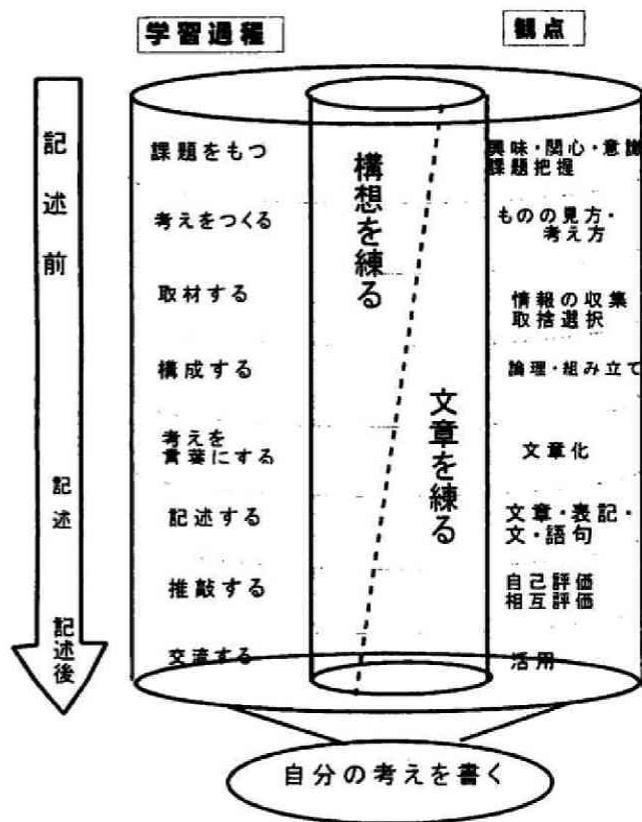
① 記述前の指導の重視

書くときに、何を書いたらよいのか分からない、どのように書いたらよいのか分からないという児童の実態があるのではないかと考えた。このような課題を解決するために、記述前の指導を重視した単元の展開を工夫することにした。

具体的には、「構想を練りながら自分の考えをもつ学習場面」と「自分の考えを記述する学習場面」の二つの学習場面をきめ細かく、丁寧に指導することが授業改善の視点になると考えた。

記述前の指導を細分化して展開することにより、「自分の考えがおぼろげであった児童」が自分の考えを確かなものにするができるようになったり、「自分の考えの書き表し方が分からなかった児童」が、自信をもって書けるようになったりするのではないかと考えた。

② 学習過程と指導の観点



学習過程については、学習指導要領の「B書くこと」に示されている内容を踏まえ、「取材」「構成」「記述」「推敲」という学習過程を基本としつつ、以下の工夫を行った。

一つは、記述前の過程の細分化である。取材の前に「考えをつくる」、構成の後に「考えを言葉にする」という過程を位置付けた。

二つは、構想を練る、文章を練るという思考の位置付けである。自分の考えを書く上で、この二つを学習の全過程を通じて意識させることが重要であると考えた。

なお、学習過程は、直線的なものではなく、構想を練る、文章を練ることを意識しつつ、前後の過程と重なりをもちながら展開するものであるととらえている。

指導の観点については、学習過程ごとに指導の重点となる項目を精選し示したものである。

イ 学習活動の工夫

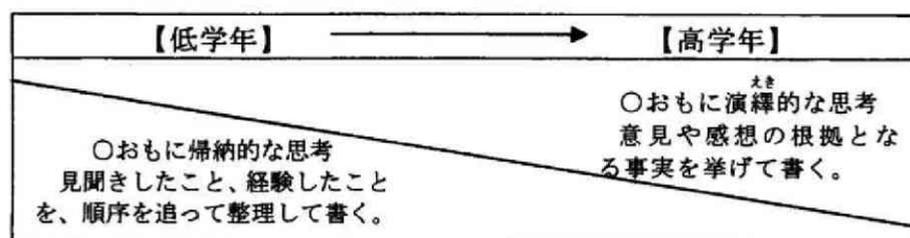
① 自分の考えをもたせるための学習活動の工夫

自分の考えをもてないという児童に対しては、時間を十分に与えるとともに、学習活動を工夫することが必要である。また、すでに考えをもっている児童であっても、自分の考えを広げることや深めることを目指すようにさせることが大切である。

そこで、記述前の構想の段階で題材について話し合いをしたり、取材の見通しをもたせたりするなど、自分とは違うものの見方や考え方に触れる学習や学習の見通しをもた

せる学習活動を設定することにした。このことにより、児童は、おぼろげであった自分の考えを明確なものにしたり、新たな考えや発想をもてるようになってきたりできるようになる。加えて、学習の見通しを明らかにすることにより、書きたいこと、伝えたいことを具体的なものとしてもつことができるようになることと考えた。

なお、学習課題に対して自分の考えを筋道立てて書くための思考を、おおむね、次のようにとらえた。



② 文章化を図るための学習活動の工夫

取材や集材した書く材料を構成した後、すぐには、文や文章として書き始められない児童がいる。これらの児童に対する指導の手だてが必要である。

そこで、「構成→記述」ではなく、「構成→考えを言葉にする→記述する」というように、記述の前に、どのような言葉で、どのように書き表したらよいかを学ぶ学習活動を設定する。児童が学習する文章の種類や形態の例文などを示すことで、書きぶりや構成などに着目させ、具体的な表現の仕方について学習できるようにした。

なお、本研究の「自分の考えを書く」というときに、対象となる文章の種類や形態については研究の焦点化を図るため下の表の内容を対象とすることとした。

	学習指導要領に示された言語活動例	文章の種類や形態
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 先生や身近な人などに尋ねたことをまとめること 観察したことを文などに表すこと 	*観察記録文
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の疑問に思った事などについて調べてまとめること 経験した事を記録文や学級新聞に表すこと 	*説明文 小冊子 記録文 学級新聞
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題について調べてまとめた文章にすること 経験した事をまとめた記録や報告にすること 	*意見文 紹介文 記録文 報告文

(* 実践・検証した文の種類)

ウ 個に応じた指導と評価の工夫

本研究では、個に応じた指導とは個人差に応じた指導であるととらえている。個に応じた指導を進めるためには、まず、児童の学習状況を把握することが必要である。「書くこと」の単元に取り組む前に、児童一人一人の興味・関心や習熟度などについて、これまでの作文の分析や聞き取り調査などを実施しておく。そして、個々の児童の評価情報を整理し、個別の支援計画を立てる。「書くこと」の単元の学習では、この評価情報や支援計画に基づいた指導の手だてを工夫する。1単位時間の中で全員の指導と評価をすることは難しくても、個々の支援の方向と手だてをもって指導に当たることにより適切な支援が可能になると考える。

【事例1】 構想メモを生かした指導の工夫〔第5学年〕

(1) 単元名
「自分の考えを伝えよう」 ～ゲームについて考えたことを意見文に表そう～

(2) 単元の目標
・自分の考えを相手に伝えるために、筋道立てて意見文を書く。

(3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語に関する知識・理解・技能
・自分の考えを明確にするために話し合ったり、取材しようとしたりしている。 ・構成や表現を工夫して自分の考えを筋道立てて書こうとしている。	・自分の考えがよく伝わるように、文章全体の組み立ての効果を考えながら文章を書いている。 ・根拠としての事実を基にして、自分の考えを書いている。	・自分の考えを明確に表現するための文章の構成を工夫している。 ・文と文、段落と段落の関係をつかみ、適切に指示語・接続語を使っている。

(4) 単元の指導計画(8時間扱い)

主な学習活動	◎ 評価規準 (評価方法) ☆ 評価に基づく具体的な手だて
1 ①単元の概要を知り、学習計画を立てる。 ②例文を参考に意見文の書き方を知る。	◎学習の見通しをもち、話し合いに参加しようとしている。(観察)(ワークシート) ☆ゲームについての考え、感想をワークシートに書くように助言する。
2 ①構想メモの作り方を知り構想メモを作る。 ②取材内容や取材方法を定める。	◎ゲームについて感想をもち、情報収集の見通しをもっている。(観察)(構想メモ) ☆構想メモ作りの手引きを参考にするよう助言する。
課外 ①取材する。(インターネット・図書・新聞・インタビュー・アンケート)	◎考えの根拠になる情報を集め、構想メモに加えている。(構想メモ) ☆目的に合った方法で取材するよう事前に指示する。
3 ①収集した情報を取捨選択する。 ②構成メモに取材したことなどを付け足す。	◎意見文に必要な情報を取捨選択している。(観察)(取材メモ) ☆取材メモの中から最も伝えたいことはどれかを考えさせる。
4 ①構成メモの作り方を知る。 ②自分のテーマについて構成メモを作る。	◎自分の考えが伝わるように文章構成を考えた構成メモを書いている。(観察)(構成メモ) ☆構成メモの作り方の手引きを参考にするように助言する。 ☆教材文の構成を確かめながら、ともに文章全体の組み立てを考える。
5 ①例文を提示し、書き出しの工夫について話し合う。 ②書き出しの工夫をしながら「始めの文」を書く。	◎読み手を引きつけるような書き出しを工夫して書いている。(下書きシート) ☆いくつかの書き出し文を用意し、参考にするよう助言する。 ☆効果的な書き出しを一緒に考える。
6 ①例文や取材メモを参考にしながら一つめの事実を書く。 ・事実と感想の書き分け ・具体的な根拠	◎事実と意見の書き分けを意識しながら「中の文」を書いている。(観察)(下書きシート) ☆取材メモと例文を参考にしながら考えるように助言する。
7 ①例文を参考にしながら二つめの事実を書く。 ②「終わりの文」を書く。	◎自分の考えが効果的に伝わるように、文末表現を工夫しながら書いている。(観察)(下書きシート) ☆取材メモと例文を参考にしながら書くように助言する。
8 ①友達と意見文を読み合う。 ②友達の感想やアドバイスをもとに、文章を修正する。	◎友達の感想を参考にしながらより良い意見文になるように、修正している。(観察)(意見文) ☆組立の効果を考えながら書いている作品を紹介する。
課外 ①意見文を読み合い、感想を交換する。 ②本単元のふり返りをする。	◎読み手の意見と自分の考えを比べながら聞いている。(観察) ☆読んで感想をもらうだけでなく、その感想や考えに対して、さらに自分の意見を話すよう助言する。

(5) 本時の学習(2/8)

ア 目標 ・ゲームについて考えたことを構想メモに表す。
イ 展開

学習活動	◎評価規準◇評価場面(評価方法) ☆評価に基づく具体的な手だて
1 学習内容を知る。 2 構想メモの作り方を知る。 3 構想メモを書く。 ①ゲームについて自分の考えをワークシートに書く。 ・体験や感想 ・考えの理由など ②ゲームについてグループで話し合う。 ・他の人の考えを聞いて考えたことをワークシートに書き足す。 ③ゲームについて考えたことを学級全体で話し合う。	◎テーマについて自分の感想をもち、情報収集の見通しをもっている。 ◇構想メモを書く場面 (観察)(ワークシート) ☆ゲームについてどんなことが考えられるか一緒に考え、それをワークシートに書くよう助言する。 ☆構想メモ作りの手引きを参考にするよう助言する。 ☆考えた理由を聞き、どんな事実があったかも書くよう助言する。 ☆友達と話し合ったことを参考に構想メモに書き加えるよう助言する。
4 構想メモに基づいて、取材計画を立てる。 ・主張内容 ・取材内容 ・取材方法	☆計画の見通しがたった児童の取材計画案を紹介し、参考にするよう助言する。 ☆メモの中からどんなことに興味をもったり、調べてみたいか聞き出し、ワークシートに書くよう助言する。
5 今日の学習をふり返る。	☆内容にあった取材方法について助言する。

(4) 考察

ア テーマについて

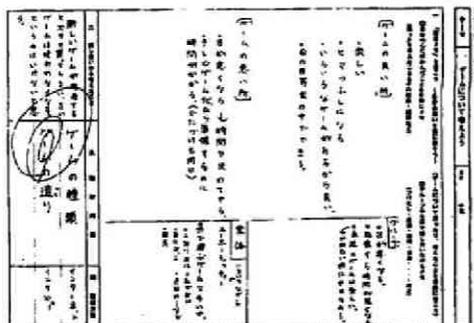
・児童が興味・関心をもち、題材についての多様な考え方や取材活動が考えられるもの、多面的なものを見方ができるものをテーマにした。

・児童にとって興味深いテーマであるが、「ゲームはやり過ぎないように、時間を決めてやると良い」という結論になりがちであった。

イ 話し合い活動について

・授業後にグループや話し合いをすることについてアンケートを行った。その結果、「テーマに対して自分の考えをもつために効果的であった」と回答した児童の割合は、グループでの話し合いについては約90パーセントであり、全体での話し合いについては約70パーセントであった。

・「グループ」「全体」で話し合うことで、次第に自分の考えが明確になったり、自信がもてたりするようになった。



【構想メモ】

ウ 構想メモについて

・テーマに対して自分の考えや想いを自由に書くことができ、さらにグループや全体の話し合いから付け足しやすい形を工夫した。さらに、話し合いが終わった後で自分の考えを整理したりまとめたりするとともに、取材内容につなげられるようなものを考えた。

・数種類のワークシートを用意し、児童が書きやすい形式の用紙を選んで書くことができるように工夫した。このことにより、児童は自分の考えを広げることができた。(羅列型・観点別の分類型・マップ型・放射状型などの中から選んで意欲的に書いていた。)

・記述の段階では多くの児童が、構想メモを参考にしながら書く様子が見られた。



【取材メモ】

エ 例文について

・書き出しは特に例文を提示しなくても全員が「構想メモ」をもとにして書くことができた。

・例文として区の参考作品として掲載された作品を提示したが、すぐに書き始めることはできなかった。学級の児童の作品を提示したところ、作文の具体的なイメージをもつことができ、多くの児童が意欲的に書き進めることができるようになった。友達作品から、学ぶことの効果の大きさを確認することができた。



【構成メモ】

【事例2】 文章化を図る指導の工夫〔第1学年〕

(1) 単元名

わたしのはっけん

～「み・たね はっけん ずかん」をつくろう～

(2) 単元の目標

自分の集めた実や種について、友達に知らせるためによく見て観察文を書き、楽しんで図鑑を作る。

(3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語に関する知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 自分の選んだ実・種をよく見て、観察文を書こうとしている。 数種類の実・種を選んで観察文を書きため、図鑑を作ることを楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実・種の色、大きさ、形、匂い、などを、感じ取って、書くために必要な事柄を集めている。 語と語、文と文の続き方に注意して、文を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 助詞の「は」、「へ」及び「を」を正しく使っている。 句点を正しく打っている。

(4) 単元の指導計画 (6時間扱い) (実・種の収集は、生活科の「秋を探そう」で行う。)

時	主な学習活動	◎評価規準(評価方法) ☆評価に基づく具体的な手だて
1	①友達に読んでもらうために、「み・たねずかん」を作ろうという気持ちをもつ。	◎「み・たねずかん」作りに関心をもって、発言したり、表紙を書いたりしている。[関心・意欲] (観察・発言、表紙) ☆話し合いや対話を通して、図鑑作りへの思いを引き出す。
2	①アサガオの種の観察文の書き方を話し合う。 ②①で話し合った使うとよい言葉を生かし、アサガオの種の観察文を書く。	◎話し合ったことを参考に、アサガオの種を観察し、観察文を書いている。[書く力] (観察文) ☆話し合った「ことばのおみせ」を必要に応じて参考にするように助言する。
3	①各ページの観察文の書き方を話し合う。 ②①で話し合った観点を生かし、自分が選んだ種・実のページを書く。	◎話し合った観点を参考に、観察文を書いている。[書く力] (観察・観察文) ☆必要に応じて、書き出しのことば「いろは」、「かたちは」などが書き込んである支援シールを貼り、文章化を促す。
4 5	①前時を生かし、「み・たねずかん」の各ページを書く。 ①各ページを順序よく貼り合わせ、図鑑を完成させる。 ②全体を読み返し、序文や奥付を書く。	◎前時の書き方を生かして、図鑑のページを書いている。[書く力] [言語に関する知識・理解・技能] (観察・観察文) ☆前時の作品のよいものを紹介し、友達の書きぶりを参考にしよう助言する。 ☆必要に応じて、書き出し支援シールを貼り、文章化を促す。 ◎ページを貼り合わせ完成した図鑑を読み返し、確かめたり直したりしている。[書く力] [言語に関する知識・技能] (観察、図鑑) ☆助詞の「は」と句点に着目して読み返すようにさせる。
6	①互いに図鑑を読み合う。	◎完成した図鑑を楽しく読み合っている。[関心・意欲] (観察・発言、一言感想) ☆楽しく読み合っている様子を、大いにほめ、認める。

(5) 本時の指導 (3/6)

ア 目標 「み・たねはっけんずかん」の各ページのよりよい書き方を考え、自分の選んだ種・実のページを書く。

イ 展開

学習活動	◎評価規準 ◇評価場面 △(評価方法) ☆評価に応じた手だて
1 本時の学習内容を知る。	
2 図鑑のページのよりよい書き方を話し合う。 ・友達の作品からよさを見つける。 ・書くとよいことを思い出す。「文のおみせ」(名前・色・形・大きさ等) ・書き上がったら、読み返し、読んだ印をすることを知らせる。	◎図鑑のページの書き方について考えたり、発言したり、話を聞いたりしている。 ◇図鑑のページの書き方を話し合っている場面 (観察・発言) ☆前時までの取り組みを生かす言葉かけをする。 ☆具体的な学習の手順がイメージできるよう板書を工夫する。
3 話し合った書き方に沿って、自分の選	◎話し合った書き方に沿って書いている。

んだ種のページを書く。

◇自分で選んだ種・実のページを書いている場面(観察・観察文)
☆書き始められない児童には、観察の観点を示した書き出し支援シールをはり取り組ませる。
☆書き進められない児童は、違う観点到に着目させるよう、書き出し支援シールをはったり、ことばをかけたたりする。
☆いくつかの観点について書き終わっている児童には、よい点をほめ、別の観点から書き加えることを勧める。
☆書き終わった児童には、読み終わった後で次のページを書き始めてよいことを知らせる。
☆表記につまずきが見られる児童には、文のおみせ・50音表などを参考にするように助言する。

4 本時の学習をふり返る。

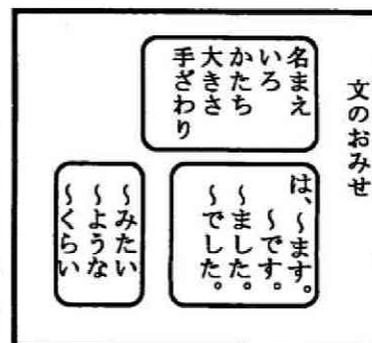
(6) 考察 ～書き始められない児童や書き進められない児童への指導の工夫～

ア 児童作品を教材として活用することについて

前時までには書いた児童の作品を資料として提示し、よりよい書き方について、よさを見つけながら、話し合いを行った。友達の作品は、共感できる部分も多く、たくさんの発言を引き出すことができた。また、よりよい作品を書きたいという児童の意欲を高めることができた。授業後のアンケートでは、83%の児童が、友達の作品を読むことは、書くことに役立ったと答えている。

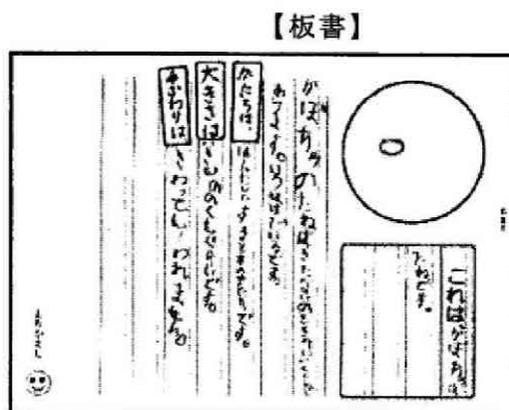
イ 話し合いで作成した「書き方の手引き」について

アのよりよい書き方についての話し合いを「ことばのおみせ」「文のおみせ」としてまとめたものを示した。本時の直後のアンケートでは70%の児童が記述中に参考にしたと答えており、第4・5時では、さらに多くの児童が記述、または、推敲の際に活用している姿が見られた。与えられた手引きよりも、自分たちで話し合い作り上げた手引きが有効であった。



ウ 書き出し支援シールの活用について

「ことばのおみせ」「文のおみせ」や友達の作品を、自分の記述に生かしていくことが難しく、書き進められない児童には、さらに具体的に「何を」書けばいいのかを明確にするため、「大きさは」「かたちは」などの書き出し支援シールを貼るようにした。シールを手がかりに書き進めることができ、さらに2枚目3枚目と進めると、シールは不要になり、自分でいろいろな観点をもちながら、書き進められるようになっていった。



【作品例】

エ 記述中の指導について

記述前の指導は重要であるが、児童の「書きたい」という気持ちの高まりをタイミングよく書く活動につなげるためには、焦点化が必要である。さらに、記述中に、共通の課題も見出されるので、児童の学習状況に応じて全体に指導することも必要である。

オ 相手・目的意識の明確化について

書き進めてはいるが、内容が形式的なものになりがちである児童も見られた。課題解決のためには、相手・目的意識をより意識させ、体験と結びついた書く場の設定や低学年なりに自分の文章を読み返す力をはぐくむことが必要である。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 自分の考えを書く力を高めるための「学習指導一覧表（試案）」について
- ・自分の考えを筋道立てて書くときの諸能力を分析的・系統的にとらえることによって、取材・構成・記述・推敲という学習過程をさらに細分化して、指導する必要があることが分かった。
 - ・学習過程に沿って学習活動・評価規準・評価に基づく指導を設定した一覧表を作成することで、指導の在り方を具体的に探ることができ、検証授業に活用することができた。
- (2) 記述前の学習過程における指導と学習活動の工夫について
- 筋道立てて自分の考えを書くことを目指し、記述前の次の学習過程における指導の工夫について協議した結果、下記の表に示した効果が見られた。
- ・「考えをつくる」という学習過程で例文にふれることは、これから書く文章のイメージや課題意識・目的意識・相手意識を明確にもたせることになり、構想を練ることにつながった。
 - ・構想メモをつくることやメモをもとに話し合う学習活動で、すでに取材意識が芽生え、取材内容や取材方法まで見通すことが可能であることが確認できた。
 - ・「考えを言葉にする」という学習過程では、例文から学ぶことのほかに、友達の作品から学ぶことも有効であると児童が意識していることが明らかになった。

学習過程	学習活動	児童への効果
考えをつくる	<ul style="list-style-type: none">・例文にふれる。・構想メモをつくる。・メモをもとに話し合う。	<ul style="list-style-type: none">・考えを明らかにする。・他の考えを知る。・考えを比べる。・考えを広げる。・考えを確かにする。・見通しをもつ。・疑問や取材意識をもつ。・取材方法や取材内容が分かる。
考えを言葉にする	<ul style="list-style-type: none">・例文から学ぶ。・話し合っ手引きを作る。・友達の作品から学ぶ。	<ul style="list-style-type: none">・書きぶりが分かる。・考えの筋道の立て方が分かる。・文章構成、構文が分かる。・文の量が増える。・語いが広がる。

- (3) 個に応じた指導と評価の工夫について
- ・児童の学習状況を把握し、個別の支援計画を立てることで、授業中の個別指導を具体的に進めることができた。つまづきが予想される児童には、適切な支援をあらかじめ考えておくなど工夫することができた。「十分、満足できる」と判断される児童には新たな課題を用意することができた。

2 研究の課題

(1) 個性豊かな表現力の育成

記述前の学習過程における指導によって、児童は自分の考えを書く方法を学ぶことができたが、その中には、はじめに示された文章の形式や型から離れられない作品も見られた。基本的な形式を踏まえつつ、その子なりの個性や創造性あふれる表現で、自分らしさを発揮しながら書くことができるように指導することも必要である。

(2) 指導形態や教材開発

「自分の考えを書く」学習において個に応じたきめ細かな指導をするためには、個別の支援計画を立てて指導に当たるという手だてのほかに、指導形態や教材開発といった面でも工夫する必要がある。

(3) 学習指導一覧表（試案）

「書くこと」の能力や評価規準は、文章の種類や形態によって異なるものである。学習指導要領の言語活動例に基づく様々な文章に対応した「学習指導一覧表（試案）」を検討する必要がある。